



私の  
**なんとなしなきゃ!**

Vol. 17

## PROFILE

1967年新潟県出身。東京女子大学卒業・NYフォード大学留学・事業創造大学院大学修了(MBA取得)。現在は「ひるおび!」(TBS)、「ウェークアップ!ぶらす」(読売テレビ)などのメディアでコメンテーターとして活躍中のほか、事業創造大学院大学の客員教授として教壇に立つ。国際貢献やエネルギー関係にも見識があり、国の委員も務めている。カンボジア、ネパールなどJICA事業の視察も行っている。趣味はゴルフとスキューバダイビング。「なんとなしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

昔から旅行が好きで、休暇を利用してよく海外に出かけていました。初めてアメリカに行った時の衝撃は今でも鮮明に覚えています。一つの空間にいろいろな人種の人が共存していて、それぞれの個性を尊重し合っていて生きています。そこには、日本にはない解放感がありました。そんな異国の人々との巡り合わせや新しい発見が、私を海外に導いてきたのだと思います。

大学卒業を控えて、将来何をしたいのか、明確な答えを出せずに悩んでいたころ、天安門事件やベルリンの壁の崩壊など、世界の歴史を大きく揺るがす出来事が次々と起こりました。日本にいなながらも“世界は動いている”ことを実感する日々だったのです。そんな激動の時代に生きているのだから、この現実をもっと知りたい、そして、その裏側にあるストーリーを多くの人に伝えたいという気持ちが強まり、最終的にキャスターという仕事にたどり着きました。

# 異国での出会いが人を成長させる

フリーキャスター・事業創造大学院大学客員教授

## 伊藤 聡子

ITO Satoko



photo by Koji Sato

実際に始めてみると、私自身が“伝えたい”ことを視聴者に“正しく伝える”という難しさに悩むことも多いのですが、取材先でのさまざまな出会いが、私の日々の活力になっています。

社会人になってからは、スキューバダイビングが趣味ということもあり、プライベートで途上国に足を運ぶようになりました。いつも豊かな自然に癒されたいと思っ行くのですが、現地の人々の純粹さや力強さ、人と人の密接なつながりなどが、日本で忘れかけていた何かを思い出させてくれるような気がするんです。帰国する時には、今まで遠い存在だったその国が大好きになっていますね。ですから、そこで暮らす人々が貧困や自然災害などで窮地に陥った時に「なんとなしなきゃ!」という気持ちになるのは当然のこと。それが国際協力の原点なのではないかと思えます。

昨年11月、ネパールでJICAボラン

ティアの活動を視察したのですが、隊員の皆さんの活動地を訪問して驚いたのが、日本では想像もできないような生活環境の中に一人でぽつんと派遣され、たくましく生きていること。その土地にはその土地のやり方があり、日本とはまったく違う価値観の中での葛藤があるようなのですが、現実と真摯に向き合い、違いを尊重し、思い合い、助け合っていた。その姿を本当に頼もしく感じましたし、途上国で育まれた彼らの人間力は、これからの日本を支えていく上で本当に貴重だと実感しています。協力隊の経験が帰国後に存分に発揮できる場が増えるよう、日本も変わっていくといいなと思っています。

「なんとなしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。[なんとなしなきゃ.jp](http://nannotonashikyaku.jp)  
詳しくはこちらから→